

[成果情報名] 極早生、早生温州ミカンにおける果実の取り扱いが腐敗発生に与える影響

[要約] 極早生温州ミカン、早生温州ミカンにおいて収穫して早い時期にコンテナの移し替え等の家庭選果作業で果実に傷がつくと緑かび病を主体とした果実腐敗の発生が増加する。そのため、腐敗果の発生を防止するためには、特に収穫まもない果実はコンテナの移し替え等の作業を少なくし果実に傷がつかないようにする。

[キーワード] 極早生温州ミカン、早生温州ミカン、傷、緑かび病、果実腐敗、家庭選果

[担当] 長崎県果樹試験場・病害虫科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール fbyoty@afes.pref.nagasaki.jp

[区分] 九州沖縄農業・果樹、病害虫

[分類] 指導

[背景・ねらい]

近年、極早生温州ミカン、早生温州ミカンで緑かび病を主体とした果実腐敗が多発する年が多い。緑かび病は果実に傷をつけることで病原菌が感染することが知られているが、極早生、早生温州ミカンのように貯蔵することなく出荷するため、果実の取り扱いが直接、腐敗に結びつく可能性がある。そこで、いつの時期の果実への傷が果実腐敗の発生に特に影響があるのか、また、農家慣行の家庭選果作業が腐敗果発生に与える影響について検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1．収穫した翌日にコンテナの移し替え5回行った後、箱詰めした区ではコンテナの移し替えを行わないで箱詰めした区と比較して緑かび病を主体とした果実腐敗の発生が増加する(表1)。
- 2．収穫した4日後にコンテナの移し替え5回行った後、箱詰めした区ではコンテナの移し替えを行わないで箱詰めした区と比較して同等の果実腐敗の発生である(表2)。
- 3．農家慣行で家庭選果を行った後、箱詰めした区は、家庭選果を行わないで箱詰めした区と比較して緑かび病を主体とした果実腐敗の発生が多い(表3)。
- 4．以上のことから収穫して早い時期に家庭選果等で果実に傷がつくと緑かび病を主体とした果実腐敗の発生が増加する。

[成果の活用面・留意点]

- 1．極早生、早生温州ミカンの腐敗果防止対策として活用

[具体的データ]

表 1 収穫翌日にコンテナの移し替え 5 回した処理が腐敗果発生に与える影響

処理区	品種	収穫日	調査圃場数	調査箱 (10kg) 数	腐敗果数 ²		
					緑かび病	その他	合計
コンテナの移し替え 5 回後箱詰め	岩崎早生	10/19	6	12	39	11	50
コンテナの移し替え なしで箱詰め	岩崎早生	10/19	6	12	2	10	12

² 貯蔵期間 (4 週間) の累積腐敗果数

表 2 収穫 4 日後にコンテナの移し替え 5 回した処理が腐敗果発生に与える影響

処理区	品種	収穫日	調査圃場数	調査箱 (10kg) 数	腐敗果数 ²		
					緑かび病	その他	合計
コンテナの移し替え 5 回後箱詰め	原口早生	11/26	6	12	12	19	31
コンテナの移し替え なしで箱詰め	原口早生	11/26	6	12	16	16	32

² 貯蔵期間 (4 週間) の累積腐敗果数

表 3 農家慣行の家庭選果が腐敗果発生に与える影響

処理区	品種	収穫日	調査圃場数	調査箱 (10kg) 数	腐敗果数 ²		
					緑かび病	その他	合計
農家慣行家庭選果	岩崎早生	10/18	6	12	18	11	29
家庭選果なし	岩崎早生	10/19	6	12	2	7	9
農家慣行家庭選果	原口早生	11/25	6	12	23	10	33
家庭選果なし	原口早生	11/26	6	12	8	8	16

² 貯蔵期間 (4 週間) の累積腐敗果数

[その他]

研究課題名：果実腐敗の発生要因の解明と効率的防除法の確立

予算区分：県単

研究期間：2002年度 (平11 ~ 15年)

研究担当者：小嶺正敬、中村吉秀、早田栄一郎